

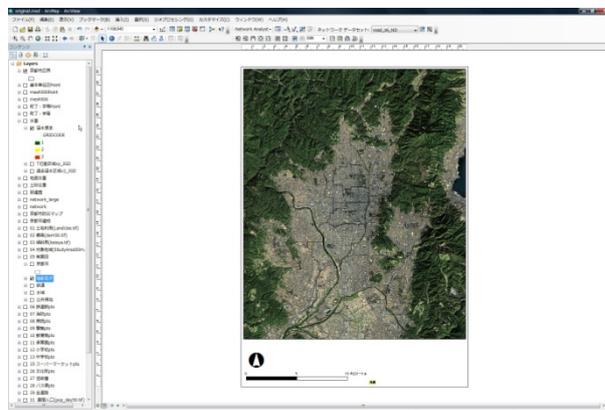
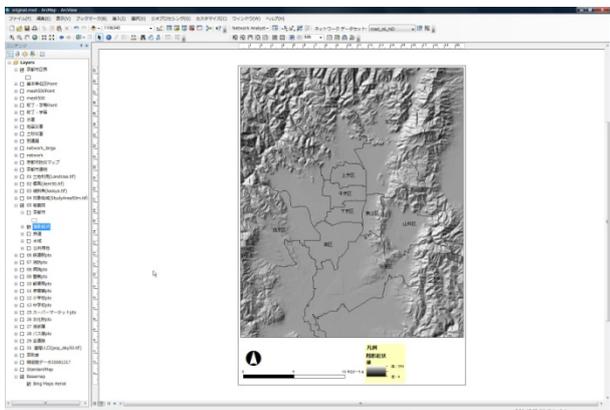
2. 被害想定地域の被害状況

本演習で利用する被害想定.mxd を起動する。

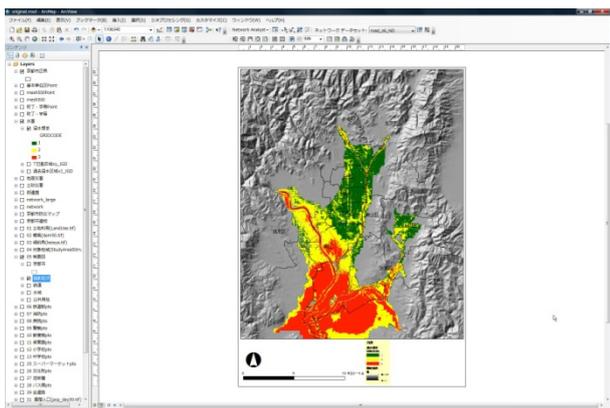
ArcGIS の起動の手順：フォルダ内の被害想定.mxd をダブル・クリックする。

表示範囲の選択：メニューの [ブックマーク] (京都市、京都市中心部)

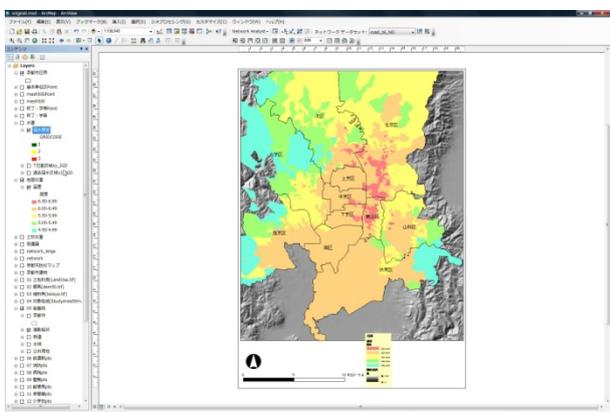
背景レイヤーの選択：(京都市区界、陰影起伏、Bing Maps Aerial)



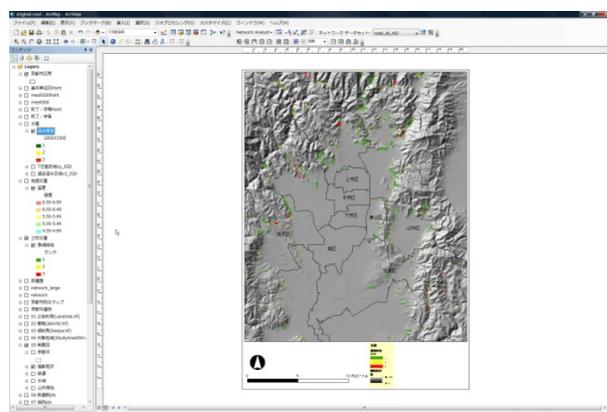
手順 1：被害想定地域を選ぶ



1) 水害 (想定浸水ランク 1-3)



2) 地震災害 (震度)

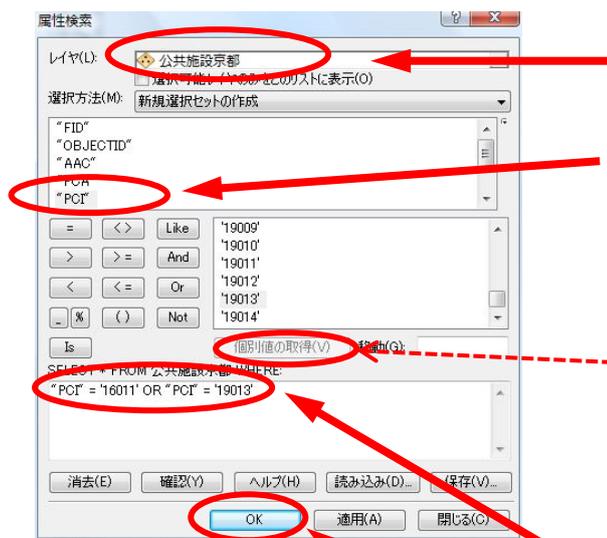


3) 土砂災害 (急傾斜ランク 1-3)

手順 2：アドレスマッチングで被害対象を特定する。 → 「アドレス・マッチング.docx」を参照

手順3：被害対象を特定する。

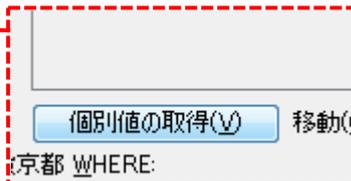
メニューの [選択] → [属性検索] を選ぶと、属性検索ウィンドウが現れる。



①「公共施設京都」を選択する。

②公共施設小分類コードを含むフィールド「PCI」をクリックする。下の「SELECT * FROM 公共施設京都 WHERE」の欄に自動的に「PCI」が入る。

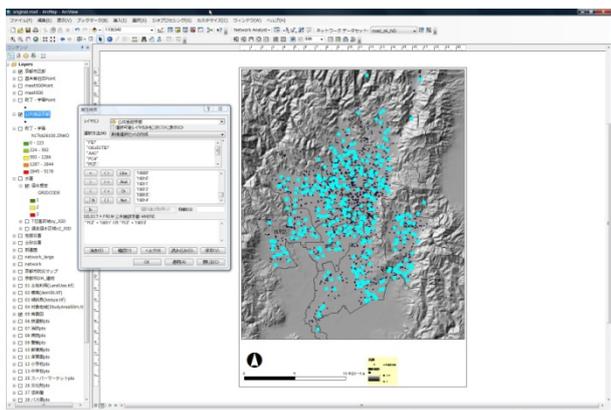
③[個別値の取得]をクリックし、個別値を取得する。



④幼稚園（16011）と保育所（19013）を特定する式を作成する。⇒"PCI" = '16011' OR "PCI" = '19013'と入力する。

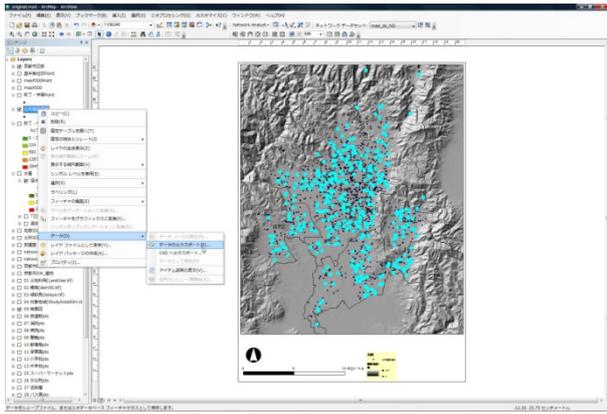
⑤ 「適用」をクリックする。

幼稚園・保育所がハイライトする。

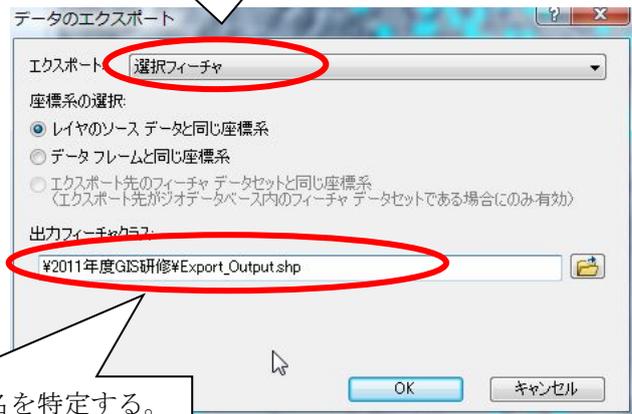


幼稚園・保育所のためのポイントの新レイヤを作成し保存する。

左のコンテンツの「公共施設京都」で右クリックをして、「データ」→「データのエキスポート」

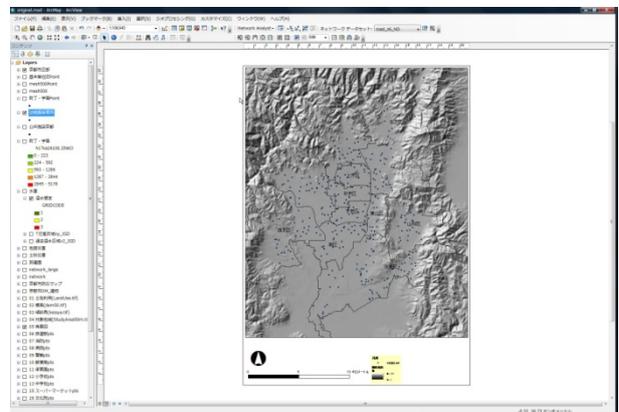
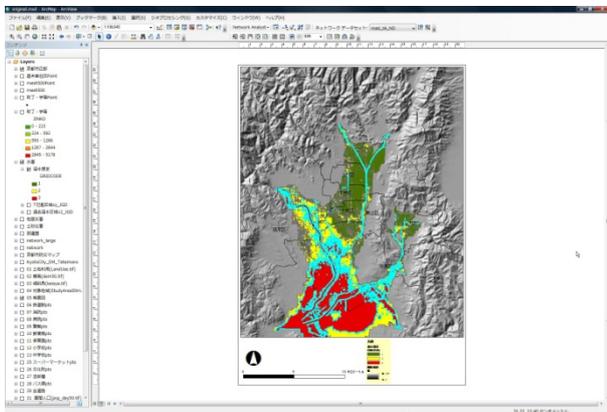


「選択フィーチャ」を選ぶ。



新レイヤの保存先、ファイル名を特定する。

手順 4 : 空間検索で、被害想定地域と重なる被害対象を特定する。



1) ソースレイヤフィーチャ

2) ターゲットレイヤフィーチャ

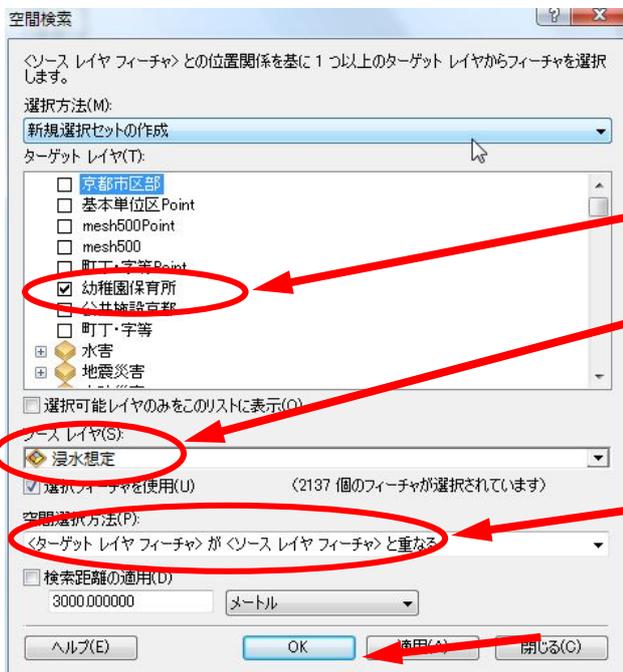
例 : 1) ソースレイヤフィーチャ

想定浸水のレイヤのうちランク 3 が選択されたポリゴン (青でハイライトされたポリゴン)

2) ターゲットレイヤフィーチャ (町丁・字等ポリゴン、町丁・字等ポイント)

空間選択方法 :

<ターゲットレイヤフィーチャ>と<ソースレイヤフィーチャ>の空間的關係



メニューの [選択] → [空間検索] を選ぶと、空間検索ウィンドウが現れる。

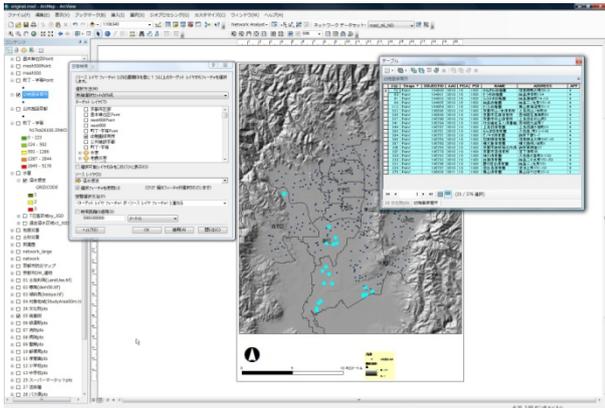
ターゲットレイヤのチェック

ソースレイヤの特定
この場合、選択フィーチャ (ランク 3) されたフィーチャのみが対象の場合はチェック

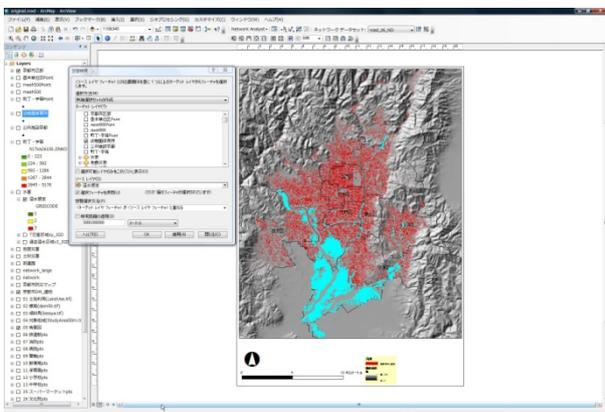
空間選択方法の選択 :

1) 重なる 2) 含む 3) 完全に含む など

⇒適用をクリック



想定浸水ランク3に重なる（少しでも含まれる）町丁・字等が選択されている。



想定浸水ランク3に重なる（完全に重なる）町丁・字等の代表点を選択されている。

手順5：被害想定地域の被害対象のリスト化

1. 被害想定地域の人口・世帯数の推計.docx
を参照